

第4回坂出市学校再編整備検討委員会会議録（概要）

1. 日 時 平成19年10月30日（火）
午後7時～9時20分（2時間20分）
2. 場 所 坂出合同庁舎 4階 大会議室
3. 会議次第 (1) 新しい校舎の実例について
(2) 教育予算について
(3) 学校の沿革について
(4) 他市の学校再編基準について
(5) その他
4. 会 議 録（概要）

議長（会長） 初めに、新しい校舎の実例について、を議題とします。
事務局が近隣の新しい校舎の実際の様子を撮影していますので、
スライドを使って説明して頂きます。

（スライドによる説明）

議長 委員の皆様からご意見、質問、感想等をお願いします。
大変立派な校舎ですが、建設費は幾らかかったのでしょうか。

事務局 A小学校で説明しますと、計12億4,100万円です。

議長 新しい立派な校舎を見ますと、我々のほうは多くが老朽校舎に子どもを通わせていますので、ため息が出てしまいます。
それでは次に、教育予算について、を議題とします。

（資料4-1「坂出市の教育費の推移ほか」について説明）

議長 事務局から教育予算に関して、「教育費の推移」、「学校ごとのコスト」、「県内の8市9町の状況」の説明がありました。ご意見・ご質問をお願いします。

なかなか数字の意味するところを一度に理解することは難しく、
（理解や判断に）少々時間がかかるかもしれません。

ここに表れたデータの意味するところは、坂出市は学校の数が多いから人件費は県内で最高の支出になり、人件費以外では最低の支出になっているという分析になるのでしょうか。

委員 学校数が多いから人件費がかかるのは仕方ないとしても、それ以外の一般の支出が他市町よりも圧倒的に少ないのは、予算の確保が難しいからなのか、或いは学校を良くしようとする気持ちがないのではないかと受け取ってしまいます。どうしても必要なものであれば頑張って他の市町並みに予算を取ってほしい。予算総額が決まっ

ていて人件費が多いから人件費以外の一般支出が出せないというのはおかしい。学校が多いから人件費が余計にかかるというのであれば納得しますが、予算上、人件費を引いたらこれだけしか残らなかったということですか。

事務局

市の財政状態は非常に厳しく、(市として)生き残りのために苦しい遣り繰りをしており、これまで職員数(人件費)減などで何とかしのいでいる状態です。我慢は学校現場だけでなく、他の行政分野も同様、我慢しながら息をつないでいる状態です。今ちょうど来年度の予算要求の時期ですが、教育委員会各課、その他の事業課・事務課の全課が予算要求します。要求額の積み上げ方式なので、全課の要求を満足させるには、概算で毎年8~10億円の財源が不足しています。

先般、学校訪問で各委員さんになぜこんな状態にしているのかという意見がありましたが、本当につらい思いがしています。非常に厳しい財政事情の中、学校数も多く、結果的に今現在の状態となっています。

委員

学校を建て替える場合にその資金をどうするのか、こんな状態で本当に建て替えができるのですか。また、せっかく建て替えたものの、後々の修繕予算があまり付かなくて学校運営に支障を来たすことにならないか心配です。今の財政状態でいけば建て替え後の予算がある程度確保できるような見込みはないですね。

教育長

私どももそうした心配をしています。物を作るときには予算が付いても、後の管理費がなかなか十分に確保できていないという状態です。したがって、これから物を作るうえでは、やはり後の管理費が少なくても済むようにも考えなければならぬと思っています。

議長

先ほどスライドで見た学校もたいへん斬新で素晴らしい建物ですが、維持管理には相当な経費がかかるのではないかと感じました。そういった面も考慮しながら新築等を考えていくということですね。

委員

新しい学校では、温水洗浄式のトイレなどが完備されたりしてあまりにも贅沢で、我々はそれほどの贅沢さは求めていません。今の施設水準のままでもそれほど悪くはないと思いますが、現状のようにあまりに傷み具合のひどいのは困ります。デザイン優先でなく、使い勝手がよく、維持修繕が容易で後々困らない施設を作って頂きたい。ただ、面積的には余裕がある広いものにしてほしいと思います。また、是非とも設計段階で保護者や教職員の意見を聞き入れてもらえる機会を設けてほしいと思います。

委員 教員や保護者の考え、また子どもの意見も聞いてもいいと思います。しかし全国的に一時風靡したオープンスペースとか、教室と廊下の仕切りが取り外しできるというのは、隣の教室からの様々な音が聞こえて授業が静かにできないので、一斉授業には不都合があります。ただ、低学年の生活科などでは非常によい面もあり、見た目はよいですが、一長一短あるようです。

教職員数についてですが、小規模校では子どもの数より教職員の数が多いケースがあり、規模が大きいほど割合からして教員数は少なくなっています。統合し適正規模にすると、教職員数が減り人件費が減ってきます。職員1人当たりの児童生徒数を出せばよく分かります。ただ、教職員数だけで子どもたちが幸せかどうか決まりませんが、教育予算にも関係しながら適正規模を検討する上で総合的に見る必要があります。

委員 私どもの学校は小規模校ですが、単に教職員数で判断されると誤解があります。中学校での専門教科の数学や英語などは非常勤講師の先生であり、地元の祭りの指導のために非常勤で来てもらったりしていますので、それらの事情を理解してほしい。

委員 調理員さんがゼロのところは(調理業務を)委託している学校で、ほとんどの学校は給食がありますが、島では給食がありません。昼食は自宅に帰ってとります。島においてはそういう面で不自由しているということも理解して頂きたい。

議長 この給食に関する人件費は、先程の児童1人当たりのコストを算出のうえで大変大きな要素になっていますね。

委員 小学校別行政コストの資料について。私どもの学校では平成18年度では例年にはない体育館の修理やその他臨時的な修繕があったため、少ない児童では1人当たりの金額が相当大きくなってしまいました。他の小規模校も同様の事情があると思いますので、単年度だけの資料を出すのが腹立たしく感じました。

事務局 資料作成上の配慮が足りなかったと思います。臨時的、突発的な支出を外すとか、あるいは何年分かで平準化すべきところでした。これも教育費の推移の資料で説明したとおり、投資的経費の要素もあるという点を注意し見て頂きたいと思います。

議長 次に、学校の沿革について、を議題とします。

(資料4 - 2「坂出における学校の主な沿革」について説明)

議長 明治4年から昭和61年の100年以上におよぶ学校の、現在の形態に至るまでの歴史についての説明がありました。委員の皆様の

ご意見、ご質問をお願いします。

議長 坂出市の規模でこれだけの学校数を擁することについて、沿革史から説明できるのであれば教えて頂きたい。

教育長 坂出市は町村合併でだんだんと市域を広げてきたということが一番の理由だと思います。坂出村、坂出町から坂出市になっていく過程で、周辺の村と合併し、そしていわゆる新市の地域と合併してきましたが、旧村の学校をそのまま残したというのが実情です。今の時代であれば合併時に統廃合の議論も出たと思いますが、当時は人口も増えていたこともあってそのような議論が出なかったのだと思います。また当時では、今のように子どもがこれほど減るとは誰も予想していなかったと思います。

議長 次に、他市の学校再編基準について、を議題とします。

(資料4 - 3について説明)

議長 事務局から、他市の再編基準について紹介して頂きました。

これまでの検討委員会で、児童生徒数の推移と予測、小規模校のメリット・デメリット、耐震化に係る資料などの提示と説明がありました。実際に学校視察もしました。そして今日は予算面の資料や他市の再編基準が紹介され、そろそろ検討委員会としても坂出市の再編基準を具体的に詰めていく時期になったと思います。

委員 一校を新築したために他の学校に予算が付かなくなるのではという意見がありましたが、実際、学校備品等の調達もPTAの補助がないとやっていけないのが現状で、私どもPTAもエアコンや放送設備などかなり補助してきましたし、それほど切迫しています。一校を新築するとますます厳しくなり、ほかの老朽化している理科の実験道具や楽器についても、どんどんバザーをして補助しなければならないのではないかと心配になります。

予算が大変厳しい中で学校数が減らず、人件費は毎年同じだけかかります。坂出市の地理的状况を踏まえて10年後、20年後のために統廃合を推進しなければならないと思いますが、行政側が大なたを振るって頂かないと、各校区の伝統や事情がある中で、なかなか積極的に統合に向けた意見が言えません。そのあたりについて行政の考えを伺いたい。

議長 1校新築後の予算的な心配、また我々の側から統合案を出しにくい中で、行政側からの提案を求める意見がありましたが如何でしょうか。

教育長 1点目は、新築のための建設費に大きな予算が取られるため、他

の教育予算が大きく圧迫されるのではないかという話がありました
が、そのようには考えていません。耐震化とか新設校については別
枠で考えないとできません。私どもも頑張ったい。

2点目の行政側からの案を提示してほしい話ですが、最初にお断
りしましたように、白紙でこの審議会にお願いをしています。是非
とも皆さんで議論をして頂きたいと思います。

議長 第1回の検討委員会で教育長は白紙諮問をされましたが、それが
我々の中で少し戸惑っているところでもあります。

委員 幼稚園統合のときに、小学校進学時には小学校区に分かれ、中学
校への進学時にはまた一緒になるので、もっと長い展望に立ってほ
しいという保護者や地域の意見がありました。まったくその通りだ
と思いました。今、主として小学校の再編について考えていますが、
中学校がすでに統合して、瀬居中も含め陸地部では4校あります。
坂出中央幼稚園の5つの小学校区の校区はそのままに1つの小学
校でいくのか、或いは2校にして中学校で1つにするのか、という
目的が立たないと具体的な協議にならないと思います。

議長 旧市内の幼稚園が統合され、中学校も統合されている中で、小学
校が少し遅れているということでしょうか。検討を行う上で、判断
材料となる資料は今後も提示されるでしょうか、主な資料としては
出尽くした感があります。いよいよ学校再編に向けて、坂出市独自
の基準案を作っていく段階に来ていると思います。しかし、叩き台
がないと今後の会議が不安です。叩き台となる案が示されたら、そ
れを校区に持ち帰り、地元でいろんな意見を聴取しながら次の会議
にも臨めると思います。

委員 中央小、西部小、さらに東部小が統合すれば、児童数は900人
くらいで大規模校になりますが、この先も少子化が進み児童数は減
っていくので、まんざら考えられない話ではありません。一方では
行政の少子化対策やまちづくりへの期待もありますが、先ほどの意
見のように旧市内で小学校を1つか2つにするという考えもあると
思いました。また、生徒数が少なくなっている東部中も再編の対象
になるのではないかと思います。各委員がそれぞれの地域を離れ大
きな視野に立った意見を交換しながら一つの方向性を見出すべきで
はないかと感じています。

議長 それぞれの委員が、それぞれ校区とか地域を背負っていますので、
他の校区にまたがった意見があろうかと思います。今、3小学校
統合の話がありました、いずれも昭和30年代の建築で、もう子

どもの安全という点でほぼ待ったなしの状況になっているという背景があります。その次には昭和40年代建築の校舎が待っています。

これまでの議論や視察を通じて、この耐震化の問題と複式学級化の逼迫感という2つの要素を考え合わせながら長期的な坂出市独自の統合基準案を作っていかなければならないと思います。耐震性の心配がある旧市内3小学校をそのまま建て替えるのは財政的に無理だとすれば、これが第一段階になるのではないかと考えられます。他市の基準例には、前期計画・後期計画、あるいは何年度そして何年度以降の将来構想というように、段階的な考え方を参考にしながら、次回には素案を出すべきだと思います。

委員 まず中央小と西部小が統合するのが一番目の段階で、次に島嶼部の統合問題が上がってくるという噂を聞きました。統合の案がないということですが、大体の線があるのなら示してもらえれば我々も心構えができます。

議長 行政からの提案がないのであれば、会長素案という形で示させて頂いて、それを皆さんでもんで頂いてもよいと思っています。

委員 西部小と中央小の統合の話は今どれくらい煮詰まっているのでしょうか。

委員 中央小と西部小を統合するための説明会が近じか開催されるという噂が流れているようで、統合校の名前も坂出小学校になるということです。しかし、ずっと以前から中央小と西部小の統合話があって、私どもも以前から聞かされてきました。この場での検討内容についてPTA役員会などに少し報告していますが、地元の総意が取れているという段階ではありませんし、地元として（統合を）歓迎するという雰囲気にはありません。今後、具体的な方向性が出れば報告しようと考えています。

委員 地元に戻って具体的で細かい話が伝わればいろいろな意見が出てくるし、全員が賛成というわけにはいかないと思います。

年度末までにどれくらい濃厚な議論ができるのかどうか、西部小と中央小の統合の問題点があれば当委員会が後押しする必要があるのではないかと、その2校を統合しても他の地域では知らん顔という状況で3月が来て、答えが出ないままの解散になりはしないだろうかなどいろいろ考えてしまいます。残された検討時間からすると、西部小、中央小、それに東部小が加わるにしても、そのあたりに標準を絞るほうがいいのではないのでしょうか。

教育長 私どもは答申を頂いた後、市の内部で実施計画を策定した上で地

元に説明にあがり、ご理解頂き、その上で工事着工をしていくという方針で臨むということをこれまで説明してきました。先程の近じか開催されるという噂の説明会について、今のところ全く予定していません。

なお、市の行政として何か大きい計画を策定する際には、一般市民の方からパブリックコメントを求めていくという制度ができています。したがって、当検討委員会である程度の案がまとまった段階で、一般市民に公表しパブリックコメントを求め、その結果を再度皆様に説明させて頂いた上で、最終的に答申を頂くという流れになると考えています。

議長 パブリックコメントを求めるための叩き台の叩き台をできれば次回に出したいし、日程的にもそういうことになろうかと思えます。

教育長 私どもの立場から言えば、やはり会長に皆さんで議論できるような叩き台を出して頂ければと思っています。

委員 パブリックコメントの話がありましたが、市の公共事業の中で本当に必要なのかと疑問に思うことがあります。議会審議を経て事業をするのですが、何年も前から雨漏りがするとか耐震化などが必要なのに、なぜ予算が付かないのかとっていました。限られた予算の中でいろんなことをやらなければならないのですから、市民の意見を行政の中で反映して頂きたい。

議長 とりわけ教育や学校のことに関して、市民の関心は高いので、できるだけ早い時点で素案を一般市民に示し、意見を頂きながら最終的な答申にまとめていくという手順を進めていきたいと思えます。

委員 西部小と中央小の統合の話ですが、かなり濃厚な話であると聞いていますし、間違いないだろうと思っています。今までの検討会では、いろいろな理由があって統廃合が必要だということを勉強させられたと思っています。教育委員会がもし（統合案を）持っているのであれば早く出してもらって、皆さんでしっかり議論してよりよい計画を作っていかないと時間がないと思えます。

今、議論は教育とか学校のことなのですが、住宅を取得するにも学校や病院から何キロということが大きな要素ですから、やはり坂出の都市計画自体をもっと考えた上での統合の協議をお願いしたい。今日、斬新な3校の統合案がありましたが大賛成です。早く案を出して頂いて議論していく、まずは西部小と中央小だと思いますし、次はどこを対象にするのか分からないですが、それを後4回、5回の検討委員会で考えていけばいいと思えます。

事務局 教育委員会として原案があるのに出さないわけではありません。誤解を解いておきたいのですが、あくまで検討委員の皆さんで考えて頂くという姿勢で臨んでおります。ただ、校舎のコンクリート強度の問題について市議会での質問を受け、特に老朽化が著しい中央小と西部小については、改築時期が迫っている事情から単なる耐震補強よりも統合による新築が望ましいと答弁しています。今現在(公言できるものは)それしかありません。ご理解をお願いします。

委員 小学生の通学距離を考えると、旧市内は2キロ～2.5キロ程度までであれば通えますが、島嶼部や新市内ではそうはいかないので、地域的な考慮をして頂きたい。また、不動産会社の方から伺った話では、家や土地を求めるときの条件は、国道や駅に近いということもありますが、若い人はやはり子どもが小学校へ徒歩通学できる範囲というのが第一条件です。できれば耐震化を急ぐ学校を先行してもらい、期間を空けてから、新市内の住宅開発の状況を考慮しながら検討して頂きたい。

議長 教育委員会からの提案がないのであれば、先ほども申しましたように私のほうから、これまでの議論を踏まえ、他の再編基準を参考にしながら、また通学問題も考慮しながら素案を次回に出させて頂こうと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

(日程調整協議)

次回は11月27日(火)午後7時からとします。

(署名委員2名の指名)

それでは、以上で議事を終了します。

司会者 以上で第4回学校再編整備検討委員会を閉会させていただきます。